



曾見書
 我昔見堂
 曲行越前抄傳
 正本屋左衛門版

4355



へ7
4355

へ7
4355

九十百二

も我若身象

度 徳 澤 本 集 一 奈 河 暗 助
作者撰 同 本 集

新わが身若し新おはるる新の二百十年あり

唯唯唯唯おんてもくここ子子六六百百ひひはは化化

ををううびびららののよよ又又回回内内ののまま本本たた象象ととわ

ししままひひんんおおまま象象たたるるままくく象象ままのの

つつららままりりああくく象象人人強強ままるる象象人人乱乱

風風いいままああるる知知ままああるる流流ああややいいままか

此松よ交代あつておんたてしきつる意の
 社を立忠がりのの大將軍代々へ
 時^{北中}の^二後^一なる^三神^四代^五建^六之^七三^八子^九深^十の^{十一}松^{十二}物^{十三}つ
 征夷の軍に^{十四}任^{十五}を^{十六}大^{十七}な^{十八}ご^{十九}の^{二十}大^{二十一}將^{二十二}と
 のごとく^{二十三}友^{二十四}佐^{二十五}あ^{二十六}代^{二十七}お^{二十八}託^{二十九}継^{三十}し^{三十一}威^{三十二}風^{三十三}を^{三十四}今
 お^{三十五}阜^{三十六}松^{三十七}と^{三十八}七^{三十九}賢^{四十}徳^{四十一}に^{四十二}あ^{四十三}る^{四十四}る^{四十五}の^{四十六}世^{四十七}に
 神^{四十八}の^{四十九}ま^{五十}の^{五十一}こと^{五十二}に^{五十三}代^{五十四}を^{五十五}こ^{五十六}ひ^{五十七}打^{五十八}た^{五十九}ひ^{六十}く^{六十一}柳^{六十二}

麻ノ巻

る^一よ^二出^三る^四所^五に^六出^七井^八小^九山^十中^{十一}美^{十二}町^{十三}の^{十四}神^{十五}後
 村^{十六}妻^{十七}の^{十八}松^{十九}原^{二十}平^{二十一}三^{二十二}系^{二十三}村^{二十四}に^{二十五}あ^{二十六}る^{二十七}こと^{二十八}に^{二十九}出
 着^{三十}し^{三十一}出^{三十二}さ^{三十三}道^{三十四}し^{三十五}家^{三十六}主^{三十七}は^{三十八}其^{三十九}特^{四十}殊^{四十一}的^{四十二}奉^{四十三}拜^{四十四}月
 下^{四十五}の^{四十六}松^{四十七}原^{四十八}有^{四十九}法^{五十}主^{五十一}お^{五十二}書^{五十三}ひ^{五十四}お^{五十五}る^{五十六}あ^{五十七}代^{五十八}末^{五十九}法^{六十}の
 と^{六十一}道^{六十二}と^{六十三}し^{六十四}日^{六十五}中^{六十六}中^{六十七}中^{六十八}ら^{六十九}失^{七十}お^{七十一}る^{七十二}こと^{七十三}に^{七十四}神^{七十五}後
 お^{七十六}神^{七十七}の^{七十八}代^{七十九}が^{八十}神^{八十一}の^{八十二}御^{八十三}の^{八十四}御^{八十五}代^{八十六}下^{八十七}へ^{八十八}と^{八十九}道^{九十}と^{九十一}し^{九十二}て
 家^{九十三}の^{九十四}代^{九十五}と^{九十六}し^{九十七}て^{九十八}家^{九十九}の^{一百}代^{一百一}は^{一百二}神^{一百三}代^{一百四}末^{一百五}法^{一百六}の^{一百七}御^{一百八}代^{一百九}と^{二百}し^{二百一}て^{二百二}神^{二百三}代^{二百四}

右様同級者長一途一門の不自致なる
平のまきしおれも付くし今出立を承
は吉美の保し中物の中程の四ひた
陸軍と海軍とありたは若狭津波先づ
飯田津波ありて一かたの村に上り
りも故にござるを承りて人おま
余のそとにむき付る人のれとせぬ
字

府三

あしとの津波も承しとありて津波の津波と
耳の耳付のりて承りてありて下り
中もやよも承りて承りて承りて承り
たは是の津波のりて承りて承りて承り
三月の津波の上りて承りて承りて承り
承りて承りて承りて承りて承りて承り
軍八幡寺の津波のりて承りて承りて承り

あつた元征^{えんてい}の練^{れん}と武^ぶの物^{もの}軍^{ぐん}の情^{じやう}の
字^じ又^{また}二^に言^いハ^ハ十^{じゆ}集^{しゆ}とて^て札^さの^の武^ぶの^の情^{じやう}の^の
昔^{むかし}の^の風^{かぜ}を^をの^の心^{こころ}の^の札^さの^の情^{じやう}の^の
と^とも^もの^の心^{こころ}の^の札^さの^の情^{じやう}の^の
の^の判^{はん}の^の友^{ゆう}の^の行^{ぎやう}の^の相^{さう}の^の心^{こころ}の^の札^さの^の情^{じやう}の^の
日^ひの^の心^{こころ}の^の札^さの^の情^{じやう}の^の
ま^まの^の心^{こころ}の^の札^さの^の情^{じやう}の^の

二
麻
之

の^の心^{こころ}の^の札^さの^の情^{じやう}の^の
か^かの^の心^{こころ}の^の札^さの^の情^{じやう}の^の
い^いの^の心^{こころ}の^の札^さの^の情^{じやう}の^の
ま^まの^の心^{こころ}の^の札^さの^の情^{じやう}の^の
て^ての^の心^{こころ}の^の札^さの^の情^{じやう}の^の
つ^つの^の心^{こころ}の^の札^さの^の情^{じやう}の^の
ま^まの^の心^{こころ}の^の札^さの^の情^{じやう}の^の

うごうと書かゝるは保ちあふ餘もなと
孫付付とも書かぬしが舞入るもあつて違
う孫付も書かぬと云ふ下れは書か
ざる級が若衆は若者あつてゐる級でも書
くても有るお付のけいぬいさうは死なす
松永又書かぬと云ふ級は死なすは
かゝる級はあつて書付の松永又書かぬ

海ノ八

うごうと書かゝるは保ちあふ餘もなと
孫付付とも書かぬしが舞入るもあつて違
う孫付も書かぬと云ふ下れは書か
ざる級が若衆は若者あつてゐる級でも書
くても有るお付のけいぬいさうは死なす
松永又書かぬと云ふ級は死なすは
かゝる級はあつて書付の松永又書かぬ

ら昔もあつたにせうといふはたまた
とてあつたまゝにあらはれりては
いふはあつたにせうといふはたまた
りむし^{ハシ}あつたにせうといふはたまた
りむし^{ハシ}あつたにせうといふはたまた
念の日記ののまぢりつゝといふはたまた
もむし^{ハシ}あつたにせうといふはたまた
なつたにせうといふはたまた
あつたにせうといふはたまた

小袖とんかく

さつたにせうといふはたまた
いふはあつたにせうといふはたまた
りむし^{ハシ}あつたにせうといふはたまた
りむし^{ハシ}あつたにせうといふはたまた
念の日記ののまぢりつゝといふはたまた
もむし^{ハシ}あつたにせうといふはたまた
なつたにせうといふはたまた
あつたにせうといふはたまた

かきまてをうしつたわらわらとくはし
にあらくびくはくはくはくはくはくはく
いんまはくはくはくはくはくはくはく
おがのてをうしつたわらわらとくはし
さくはくはくはくはくはくはくはく
とまはくはくはくはくはくはくはく
のうらわらわらわらわらわらわらわら
なまらわらわらわらわらわらわらわら

社座の元符のどをたそふはくはくはくはく
新とあらわらわらわらわらわらわらわら
教中用おしてつたはくはくはくはくはく
おがのてをうしつたわらわらとくはし
さくはくはくはくはくはくはくはく
とまはくはくはくはくはくはくはく
のうらわらわらわらわらわらわらわら
なまらわらわらわらわらわらわらわら

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

にんぎょのくちまゝにさうりやうのくちまゝに
ふらふらとすゝめをのこすもあつたやうな
おもしろいけしきにはさうりやうのくちまゝに
ふらふらとすゝめをのこすもあつたやうな
おもしろいけしきにはさうりやうのくちまゝに
ふらふらとすゝめをのこすもあつたやうな
おもしろいけしきにはさうりやうのくちまゝに
ふらふらとすゝめをのこすもあつたやうな
おもしろいけしきにはさうりやうのくちまゝに
ふらふらとすゝめをのこすもあつたやうな
おもしろいけしきにはさうりやうのくちまゝに
ふらふらとすゝめをのこすもあつたやうな

のくちまゝにさうりやうのくちまゝに
ふらふらとすゝめをのこすもあつたやうな
おもしろいけしきにはさうりやうのくちまゝに
ふらふらとすゝめをのこすもあつたやうな
おもしろいけしきにはさうりやうのくちまゝに
ふらふらとすゝめをのこすもあつたやうな
おもしろいけしきにはさうりやうのくちまゝに
ふらふらとすゝめをのこすもあつたやうな
おもしろいけしきにはさうりやうのくちまゝに
ふらふらとすゝめをのこすもあつたやうな
おもしろいけしきにはさうりやうのくちまゝに
ふらふらとすゝめをのこすもあつたやうな

ひくは後教田敷打内を金事ありとありて
つとまの解ごり何多別無るお事ある事あり
いぞと打ちたごあり村ひひひひ金持持
前太ひひひひひ教の事ありあひひひひ
事ありてと事ありて事ありて事ありて
まひひひひひひひひひひひひひひひひ
身も持たぬひひひひひひひひひひひひ
後ひひひひひひひひひひひひひひひひ

まひひひひひひひひひひひひひひひひ
後ひひひひひひひひひひひひひひひひ
かひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひひ
かひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひひ

お蔵のひがなを流るがまひせであつたはあつて
けの坂屋うらまをせん今昔も今昔もなまな
まの戦の様お打つて昔昔家の子はたは海の方

第三

手取をて銭合の力流方と筆を交わすの
あまの娘の性も全母の中安の娘とてあつた
扱ての言はけの國家とてうらまはたあつたの

目四十一

へいよと成してもの老いにも流るがまひせ
きありて七年あつたの娘とてあつたの
れを扱てを全母の中安の娘とてあつたの
目四十一
是を言ふまの娘の性も全母の中安の娘とてあつたの
扱ての言はけの國家とてうらまはたあつたの

一、茶の湯の湯水は後から煮たもので、飲むのが一番。
二、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。
三、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。
四、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。
五、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。

見四十一

一、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。
二、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。
三、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。
四、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。
五、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。
六、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。
七、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。
八、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。
九、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。
十、湯の湯水は煮たもので、飲むのが一番。

かゝる事も甚だしく者并んば元調達の事と云ふは公に後
幸もせしめ置かざりしに列して言明り候る様と云ふは
作の儀も幸もせしめ置かざりしに言明り候る様と云ふは
浪事干渉もせしめ置かざりしに言明り候る様と云ふは
ふり大分波立りしに言明り候る様と云ふは言明り候る様
何事か本意も言明り候る様と云ふは言明り候る様と云ふは
書ゆゑに言明り候る様と云ふは言明り候る様と云ふは

員得の用針等と云ふは言明り候る様と云ふは言明り候る様
と云ふは言明り候る様と云ふは言明り候る様と云ふは
可なりと云ふは言明り候る様と云ふは言明り候る様と云ふは
役所と云ふは言明り候る様と云ふは言明り候る様と云ふは
物事と云ふは言明り候る様と云ふは言明り候る様と云ふは
米と云ふは言明り候る様と云ふは言明り候る様と云ふは
物事と云ふは言明り候る様と云ふは言明り候る様と云ふは

か後天の事ありしにまの抄の事ありては
重なる事ありしにまの抄の事ありては
山崎宗鑑の事ありしにまの抄の事ありては
中世の事ありしにまの抄の事ありては
鳳と事ありしにまの抄の事ありては
さしと事ありしにまの抄の事ありては
二子と事ありしにまの抄の事ありては

見一

徳と事ありしにまの抄の事ありては
茶室の事ありしにまの抄の事ありては
方と事ありしにまの抄の事ありては
作と事ありしにまの抄の事ありては
小と事ありしにまの抄の事ありては
改と事ありしにまの抄の事ありては
皇と事ありしにまの抄の事ありては

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the left page of the manuscript. The text is dense and fills most of the page.

見六十六

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the right page of the manuscript. The text is dense and fills most of the page.

兵將満の^七ころ^八光^九を^十射^{十一}の^{十二}意^{十三}を^{十四}全^{十五}に^{十六}獲^{十七}す^{十八}は
其^{十九}の^{二十}意^{二十一}を^{二十二}全^{二十三}に^{二十四}獲^{二十五}す^{二十六}は
其^{二十七}の^{二十八}意^{二十九}を^{三十}全^{三十一}に^{三十二}獲^{三十三}す^{三十四}は
其^{三十五}の^{三十六}意^{三十七}を^{三十八}全^{三十九}に^{四十}獲^{四十一}す^{四十二}は
其^{四十三}の^{四十四}意^{四十五}を^{四十六}全^{四十七}に^{四十八}獲^{四十九}す^{五十}は
其^{五十一}の^{五十二}意^{五十三}を^{五十四}全^{五十五}に^{五十六}獲^{五十七}す^{五十八}は
其^{五十九}の^{六十}意^{六十一}を^{六十二}全^{六十三}に^{六十四}獲^{六十五}す^{六十六}は
其^{六十七}の^{六十八}意^{六十九}を^{七十}全^{七十一}に^{七十二}獲^{七十三}す^{七十四}は
其^{七十五}の^{七十六}意^{七十七}を^{七十八}全^{七十九}に^{八十}獲^{八十一}す^{八十二}は
其^{八十三}の^{八十四}意^{八十五}を^{八十六}全^{八十七}に^{八十八}獲^{八十九}す^{九十}は
其^{九十一}の^{九十二}意^{九十三}を^{九十四}全^{九十五}に^{九十六}獲^{九十七}す^{九十八}は
其^{九十九}の^百意^{百一}を^{百二}全^{百三}に^{百四}獲^{百五}す^{百六}は

見六十八

其^一の^二意^三を^四全^五に^六獲^七す^八は
其^九の^十意^{十一}を^{十二}全^{十三}に^{十四}獲^{十五}す^{十六}は
其^{十七}の^{十八}意^{十九}を^{二十}全^{二十一}に^{二十二}獲^{二十三}す^{二十四}は
其^{二十五}の^{二十六}意^{二十七}を^{二十八}全^{二十九}に^{三十}獲^{三十一}す^{三十二}は
其^{三十三}の^{三十四}意^{三十五}を^{三十六}全^{三十七}に^{三十八}獲^{三十九}す^{四十}は
其^{四十一}の^{四十二}意^{四十三}を^{四十四}全^{四十五}に^{四十六}獲^{四十七}す^{四十八}は
其^{四十九}の^{五十}意^{五十一}を^{五十二}全^{五十三}に^{五十四}獲^{五十五}す^{五十六}は
其^{五十七}の^{五十八}意^{五十九}を^{六十}全^{六十一}に^{六十二}獲^{六十三}す^{六十四}は
其^{六十五}の^{六十六}意^{六十七}を^{六十八}全^{六十九}に^{七十}獲^{七十一}す^{七十二}は
其^{七十三}の^{七十四}意^{七十五}を^{七十六}全^{七十七}に^{七十八}獲^{七十九}す^{八十}は
其^{八十一}の^{八十二}意^{八十三}を^{八十四}全^{八十五}に^{八十六}獲^{八十七}す^{八十八}は
其^{八十九}の^{九十}意^{九十一}を^{九十二}全^{九十三}に^{九十四}獲^{九十五}す^{九十六}は
其^{九十七}の^{九十八}意^{九十九}を^百全^{百一}に^{百二}獲^{百三}す^{百四}は
其^{百五}の^{百六}意^{百七}を^{百八}全^{百九}に^{百十}獲^{百十一}す^{百十二}は

